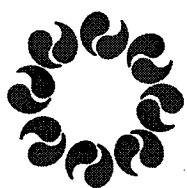


埼玉県のマスコット「コバトン」

平成 23 年度

埼玉県公立高等学校入学者選抜
学力検査結果について



彩の国
埼玉県教育委員会

I 埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

1 調査の目的

平成23年度埼玉県公立高等学校入学者選抜学力検査（前期募集2月16日実施、後期募集3月4日実施）の結果分析に基づいて、受検者の学力及び学習の状況について診断を行うとともに、特に誤答を分析することにより、学習指導上の問題点を発見し、県内の中学校及び高等学校の学習指導の在り方についての資料を提供し、併せて今後の学力検査問題の作成についての参考資料を得ようとするものである。

2 調査の方法

前期募集については、平成23年度埼玉県公立高等学校入学者選抜前期募集学力検査を受検した全日制45,275名、定時制1,049名の計46,324名の答案の中から、後期募集については、後期募集学力検査を受検した全日制11,780名、定時制1,160名の計12,940名の答案の中から、系統別抽出法によってそれぞれ463名、129名の答案を抽出し標本とした。これらを基本答案として、各問に対する答案の内容を分析し、必要な数値を示して所見を加えた。

3 学力検査問題の出題の基本方針

- ① 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。
- ② 基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題の出題に配慮する。
- ③ 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように、出題の内容、出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めるよう配慮する。

4 各教科の出題方針

平成23年度前期募集及び後期募集における各教科の出題に当たって、次の点に配慮した。

【国語】

- ① 国語を適切に表現し正確に理解する能力をみる内容について、できるだけ広範囲にわたって出題するように努めた。
- ② 文学的な文章と説明的な文章を理解する力をみるように努めた。また、古典を読む基本的な力をみるように努めた。
- ③ 作文と言語事項についての問題を出題し、文章表現力や基礎的な言語能力をみるように努めた。

【社会】

- ① 社会科の各分野（地理・歴史・公民）相互の関連を図り、基礎的な知識及び技能とともに、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題するように努めた。
- ② 地理的分野では、日本や世界の地理的事象についての基礎的・基本的な内容及び相互関係の理解をみるように努めた。
- ③ 歴史的分野では、時代の特色や推移の総合的把握及び因果関係の理解をみるように努めた。
- ④ 公民的分野では、現代の社会的事象についての基礎的・基本的な内容の理解及び今日的課題を総合的に把握する能力をみるように努めた。

【数学】

- ① 数学の基礎的な知識及び技能をみる問題について、広範囲にわたって出題するように努めた。
- ② 数学的活動を通して、数学的な表現や処理をする能力、事象を数理的に考察する能力、数学的な見方や考え方を活用する能力をみる問題を出題するように努めた。
- ③ 「数と式」、「図形」、「数量関係」及び「資料の活用」に関する内容について総合的に活用する能力をみるように努めた。
- ④ 図形についての操作や作図を重視し、図形に対する直観的な見方や考え方や論理的に考察する力をみるように配慮した。

【理科】

- ① 第1分野、第2分野及び各学年の配分を考慮し、できるだけ広範囲にわたって出題するように努めた。
- ② 理科の基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題するように努めた。
- ③ 自然を調べ、探究する態度を重視し、観察、実験などに関する問題を出題した。

【英語】

- ① 英語の基礎的な知識及び技能をみる問題について、実践的コミュニケーション能力をみることを重視し、できるだけ広範囲にわたって出題するように努めた。
- ② リスニングテストは、まとまりのある英語の話を聞いて、その概要や要点を聞き取る力をみることに重点を置いた。
- ③ 平易な英語を理解する力や平易な英語で表現する力とともに、基本的な語、連語、慣用表現及び文法事項の習熟の程度をみるように配慮した。
- ④ ある程度の長さを持ち、まとまりのある英語の文章の概要や要点を読み取る力をみる問題を出題するように努めた。

5 調査の概要

今年度は、前期募集、後期募集とも各教科100点満点の入試制度となって2年目になる。また、平成22年度までは、母集団・標本は全日制受検者のみであったが、平成23年度からは、定時制受検者を加えた。

平成22年度の学力検査結果と、全日制受検者について比較すると、前期募集では、社会が8.0点増加し、国語が3.5点、数学が2.0点、理科が6.3点、英語が5.5点それぞれ低下した。また、後期募集では、国語が5.8点、数学が3.3点、英語が8.8点それぞれ低下した。

(1) 母集団・標本の平均及び標準偏差

年 度			個体数	平 均						合 計
				国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	全教科平均	
H23 (注)	前期	母集団	46,324 (45,275)	52.2 (52.7)	56.7 (57.5)	39.9 (40.4)	44.6 (45.2)	46.8 (47.4)	48.0 (48.6)	240.2 (243.2)
		標 本	463	52.4	56.3	39.7	44.0	46.5	47.8	238.9
	後期	母集団	12,940 (11,780)	51.3 (54.1)		41.5 (44.3)		43.2 (46.0)	45.3 (48.1)	135.9 (144.4)
		標 本	129	51.1		42.0		41.6	44.9	134.7
H22	前期	母集団	49,270	56.2	49.5	42.4	51.5	52.9	50.5	252.5
		標 本	493	56.2	49.5	42.9	51.3	53.3	50.6	253.2
	後期	母集団	14,219	59.9		47.6		54.8	54.1	162.3
		標 本	142	59.1		48.0		55.0	54.0	162.1

(注) 平成23年度より、母集団・標本には定時制受検者を含む。()内は、全日制受検者のみの数字である。

年 度		個体数		標 準 偏 差				
				国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
H23	前期	標 本	463	17.98	23.24	15.31	23.04	23.58
	後期	標 本	129	19.87		19.10		21.48
H22	前期	標 本	493	19.40	20.07	14.91	20.03	23.91
	後期	標 本	142	19.82		15.78		24.52

(2) 平成23年度 学力検査問題の出題数

H23 前期		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
問題 数別	大問数	5	6	4	5	5	25
	小問数	25	31	22	31	31	140
	選択肢によるもの	10 (40.0%)	16 (51.6%)	0 (0.0%)	10 (32.3%)	16 (51.6%)	52 (37.1%)
	記述によるもの	15 (60.0%)	15 (48.4%)	22 (100.0%)	21 (67.7%)	15 (48.4%)	88 (62.9%)
	用語・単語	8	7	19	14	9	57
	文章表現	7	8	2	6	6	29
	作 図	0	0	1	1	0	2
配 点	選択肢によるもの	37 (37.0%)	43 (43.0%)	0 (0.0%)	29 (29.0%)	45 (45.0%)	154 (30.8%)
	記述によるもの	63 (63.0%)	57 (57.0%)	100 (100.0%)	71 (71.0%)	55 (55.0%)	346 (69.2%)

H23 後期		国 語	数 学	英 語	合 計
問題 数別	大問数	5	4	5	14
	小問数	25	21	31	77
	選択肢によるもの	7 (28.0%)	1 (4.8%)	16 (51.6%)	24 (31.2%)
	記述によるもの	18 (72.0%)	20 (95.2%)	15 (48.4%)	53 (68.8%)
	用語・単語	7	17	9	33
	文章表現	11	2	6	19
	作 図	0	1	0	1
配 点	選択肢によるもの	25 (25.0%)	4 (4.0%)	45 (45.0%)	74 (24.7%)
	記述によるもの	75 (75.0%)	96 (96.0%)	55 (55.0%)	226 (75.3%)

(3) 年度別学力検査の全教科受検者数と各教科の平均

年度	全教科受検者	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	平 均	総 計	
H22	前期	49,270	56.2	49.5	42.4	51.5	52.9	50.5	252.5
	後期	14,219	59.9	47.6	54.8	54.1	162.3		
H23	前期	45,275	52.7	57.5	40.4	45.2	47.4	48.6	243.2
	後期	11,780	54.1	44.3	46.0	48.1	144.4		

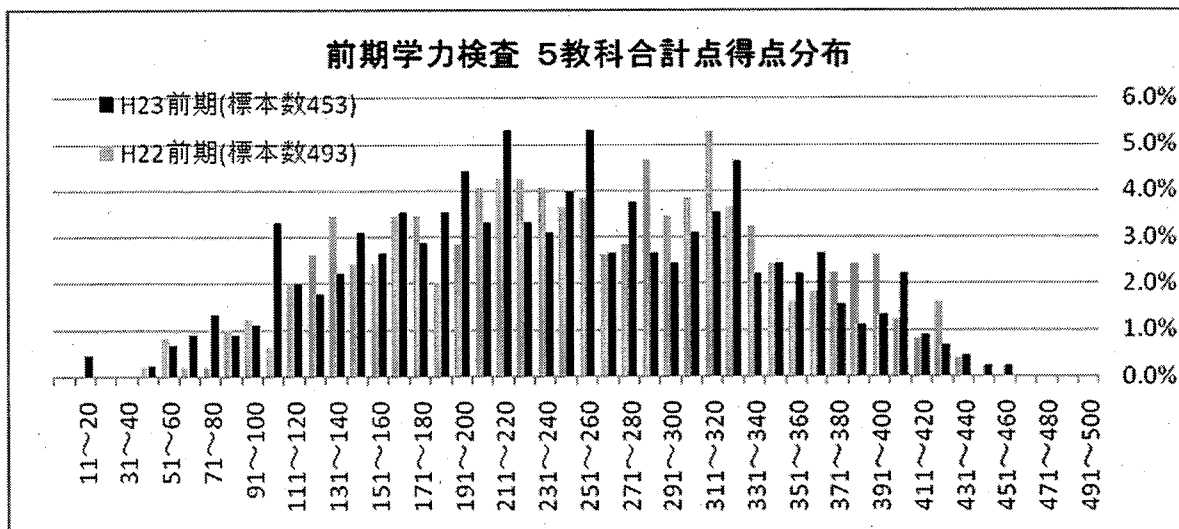
(注)：数字は全て全日制受検者のものである。

(4) 各教科の得点分布

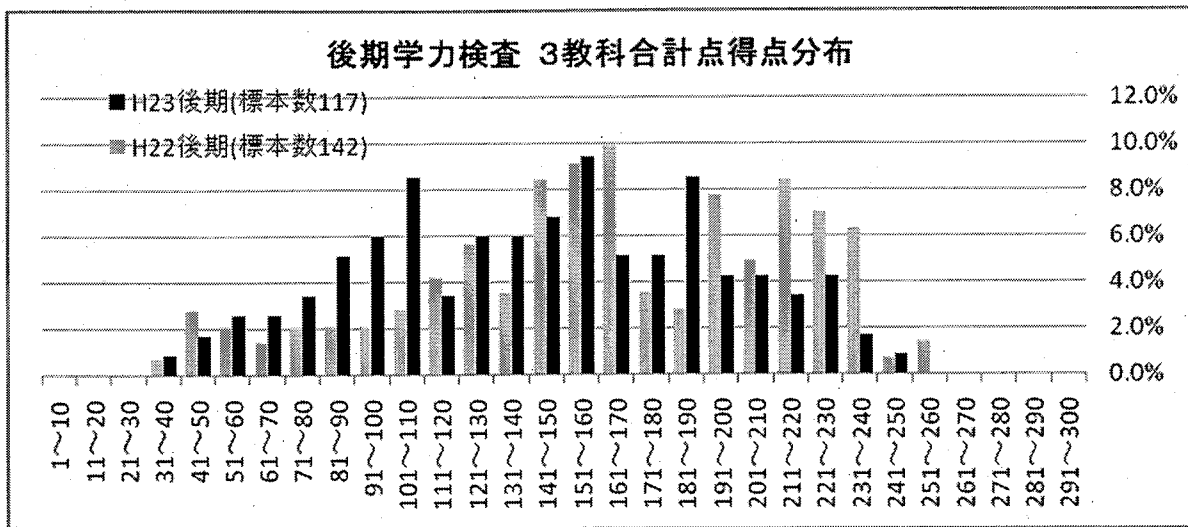
次の資料はいずれも、母集団から1%を抽出した全日制のみの標本を調べたものである。資料1及び資料2は、合計得点の分布である。平成23年度前期募集では、最頻値は「251～260」及び「221～220」が同数で、中央値は「241～250」であった。平成22年度前期募集は、最頻値が「311～320」、中央値は「251～260」であった。全体の平均点が下がったため、分布の山が昨年と比べてやや左に寄っている。後期募集についても同様である。また、最高点は、平成23年度前期募集が456点、平成22年度前期募集が440点であった。後期募集については、平成23年度が最頻値「151～160」、中央値は「141～150」、最高点250点、平成22年度は最頻値、中央値ともに「161～170」、最高点253点であった。資料3は、各教科の得点の分布である。英語を除く4教科は、正規分布に近い形である。英語は、中学校に入ってから学び始める教科であるためか例年得点差がつきやすい。資料4及び資料5は、合計得点の上位30%及び下位30%の受検生が、各教科でどのような得点をとっているかを示している。成績上位の生徒でも数学で高得点をとるのは難しかったようである。資料6では、各教科の相関を見た。紙幅に限りがあるので、ここでは、平成23年度前期募集の国語と数学、数学と英語について調べた。資料を見ての通り、ある程度の相関は見られる。

(注)：資料1～資料6は全日制のみ（標本数：H23前期453、H23後期117、H22前期493、H22後期142）

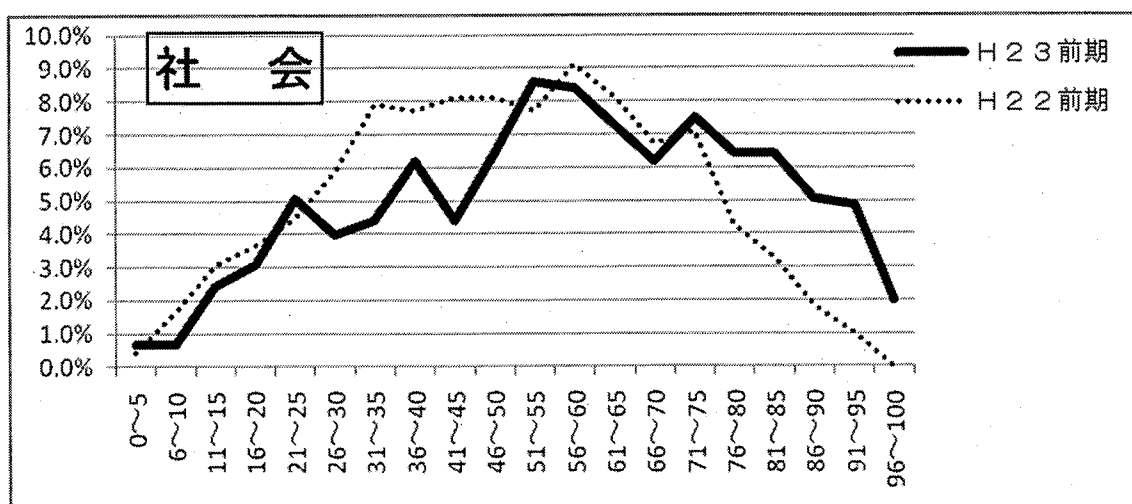
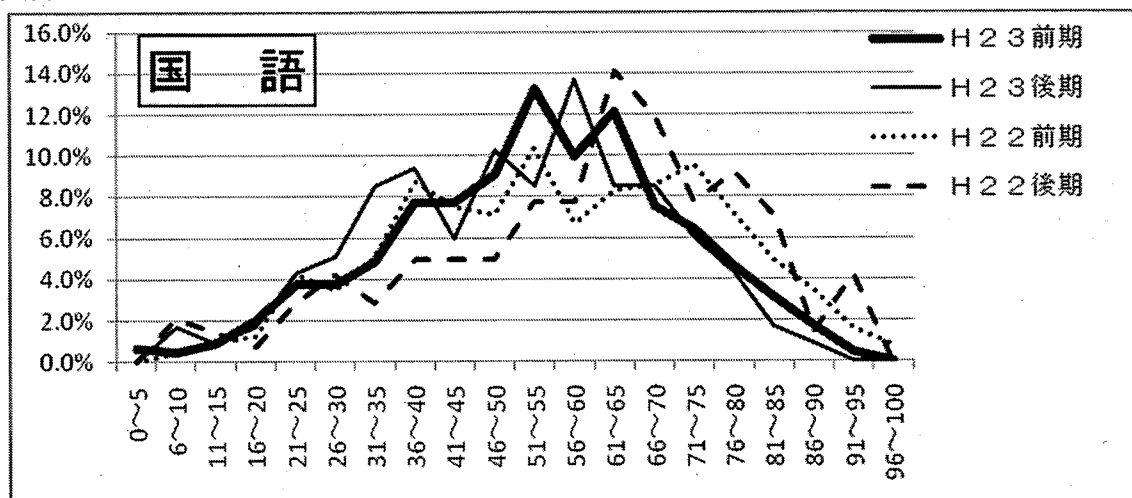
資料1 前期募集・5教科合計得点分布

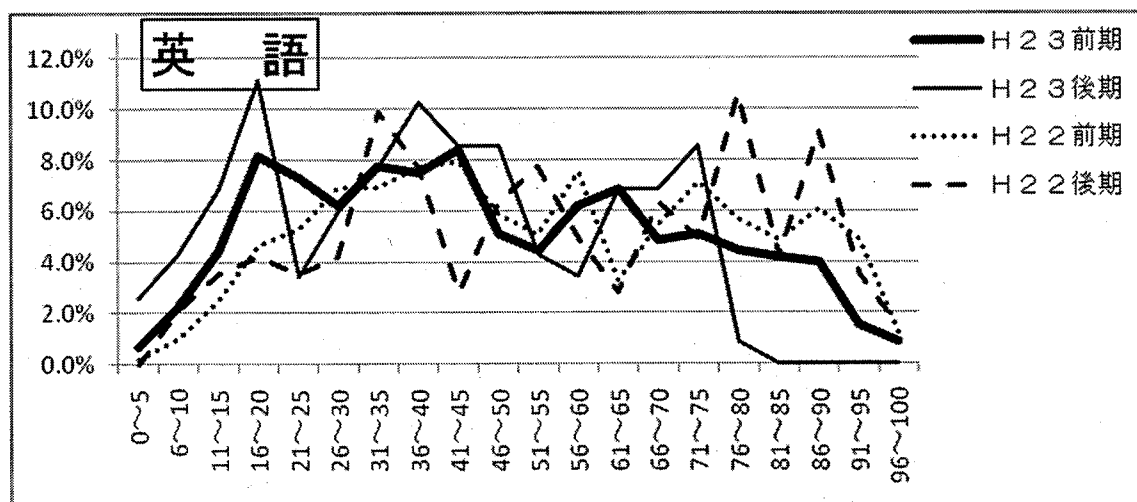
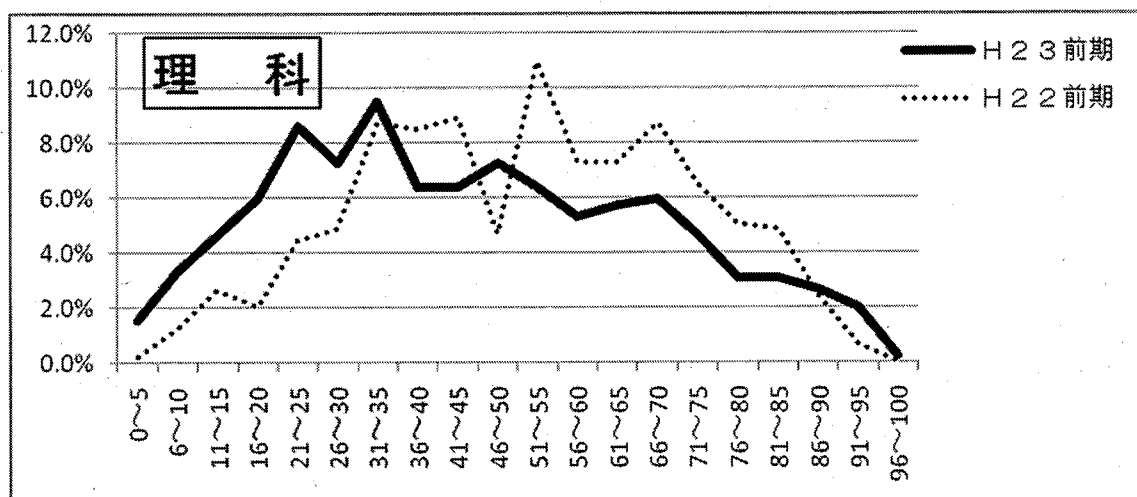
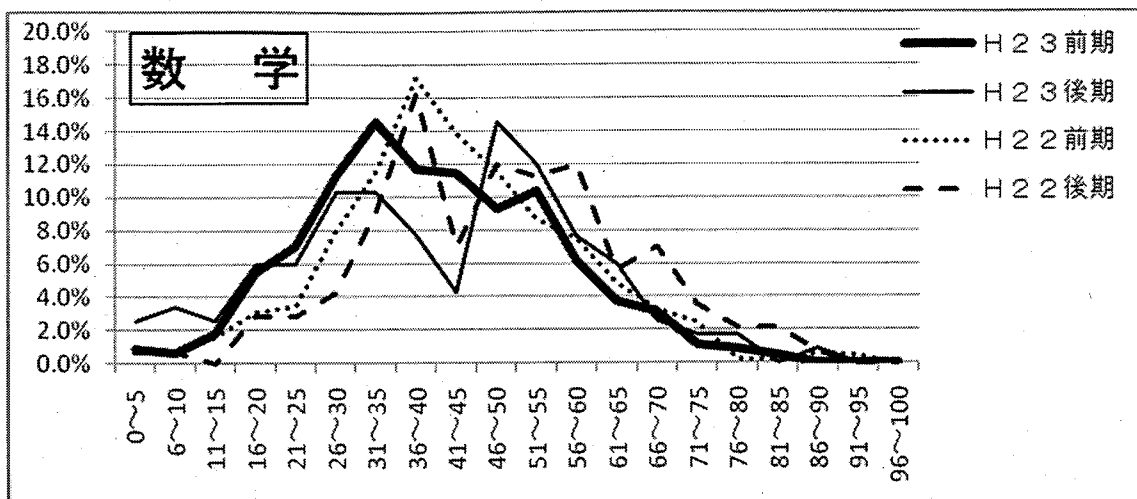


資料2 後期募集・3教科合計得点分布

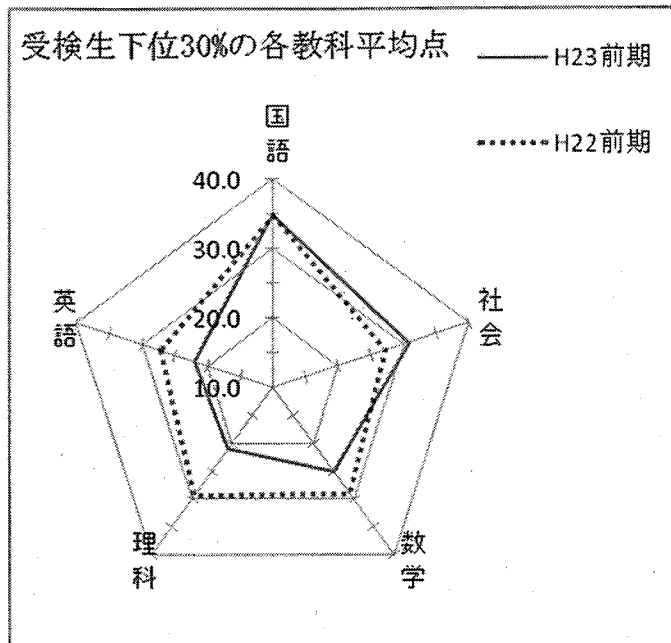
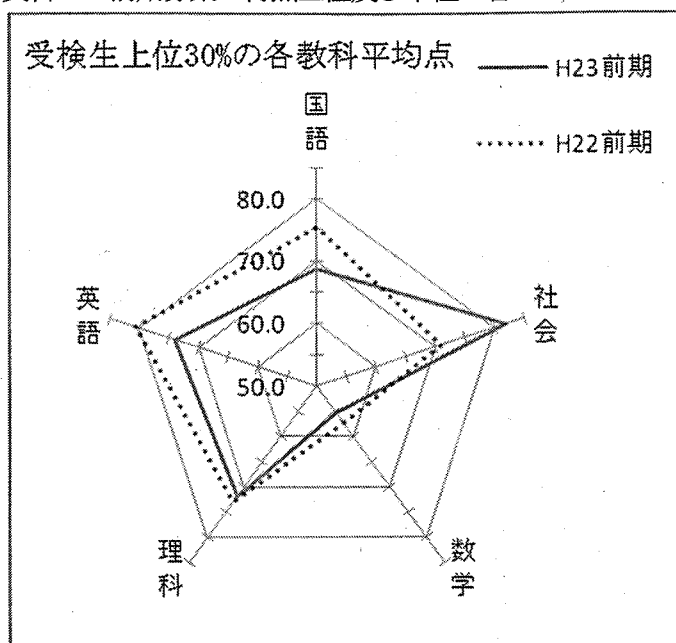


資料3 教科別得点分布

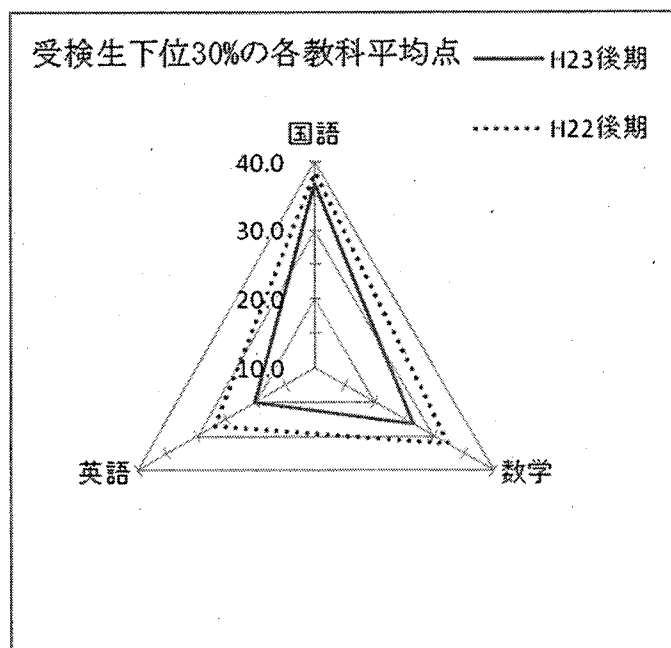
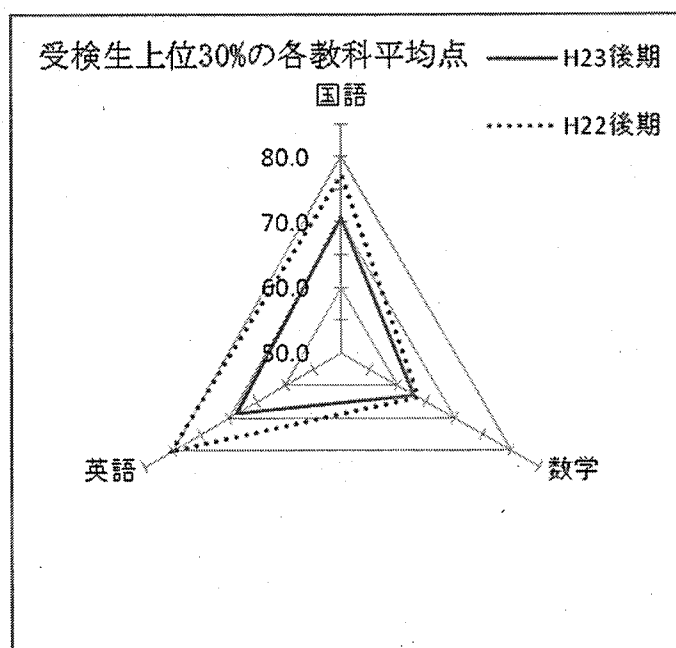




資料4 前期募集・得点上位及び下位の各30%の教科別平均点



資料5 後期募集・得点上位及び下位の各30%の教科別平均点 (全日制のみ)



資料6 平成23年度前期募集・国語と数学及び数学と英語の得点の相関

